

令和4年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	16	議席 番号	4	氏名	辻 村 岳 瑠 議 員	1 / 2
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1	増加する介護保険料の負担とそれを支える介護人材について			<p>介護保険制度創設から22年。団塊の世代が後期高齢者となる2025年を迎えるにあたり、当市の介護保険料と今後について伺う。</p> <p>(1) 当市の介護保険料の基準額は72,900円である。3年ごと改定がされるわけだが、令和3年度に増額改定となった。増額の主な要因は高齢化の進行と介護報酬の引上げである。介護保険料の地域格差が広がっていることから、以下伺う。</p> <p>① 近隣市町と比較した場合の当市の基準額についてどう考えているか伺う。</p> <p>② 高齢化の進行について。富士宮市地域福祉計画によると、要介護1の認定者が増加している。近隣市町と比較した場合、要介護1の認定者の増加が当市の介護保険料の基準額増額の要因と考えられるがいかかか。</p> <p>③ 介護報酬について。良質かつ適切な福祉サービスでなければならないが、介護サービスの質の適正はどのように判断しているのか。また、近隣市町と比較した場合、当市の要介護度別のサービスの利用状況を伺う。</p> <p>(2) 介護保険事業の骨幹は、これまでもこれからも介護人材である。当市では介護人材確保の施策として市単独事業費補助金である介護職員初任者研修費補助金を設けている。以下伺う。</p> <p>① 平成28年度の150万円に対して令和4年度は60万円になっている。その理由は何か。</p> <p>② 予算を減額するということは、介護現場では思うような人材を確保できているという解釈でよろしいか。</p> <p>③ 厚生労働省の「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」によると、介護職員は2025年度には約32万人、2040年度には69万人が不足すると公表された。介護現場と市の施策はマッチしているのか。また、介護人材を確保するための新たな施策の必要性について、市としてどう考えているのか伺う。</p>		市 長 副 市 長 関 係 部 長
2	新しい生活様式における学童スポーツの機会について			<p>第5次富士宮市総合計画では、「市民ひとり1スポーツ」を推進している。これは子どもから高齢者まで、スポーツの振興と人々の交流の機会を創出する狙いの施策であるが、特に学童期にスポーツに触れる機会の創出に重要性を感じている。しかし、コロナ禍においては、スポーツ少年団に活動自粛の要請をしなければならないという、心苦しい状況があった。新しい生活様式におけるスポーツ少年団活動に関して以下伺う。</p> <p>(1) 現在の活動自粛の要請状況について伺う。</p> <p>(2) 当市のスポーツ少年団への活動自粛要請時における、静岡県東部の他市町とのスポーツ少年団の活動自粛内容の違いについて。新型コロナウイルス感染症対策を見定める重要なポイントとして、医療崩壊を起こさないという点から、病床使用率がある。静岡県東部という共通の病床使用率で算出されていることを踏まえ、静岡県東部の他市町と富士宮市のスポーツ少年団の活動自粛内容の違いは何を根拠に判断した結果によるものか伺う。</p>		市 長 副 市 長 関 係 部 長

発言 順序	16	議席 番号	4	氏名	辻 村 岳 瑠 議 員	2 / 2
発言項目		要 旨				答弁者
		<p>(3) 約2年半に及ぶコロナ禍により、スポーツ少年団の活動は変化した。児童生徒のスポーツに触れる機会を創出することへの影響について、市は現在の状況をどのように捉えているのか伺う。</p>				
3	市民が愛着を感じる博物館構想について	<p>第5次富士宮市総合計画における基本目標4「教育文化」の政策5「世界遺産富士山の文化を創造・継承するまち」の基本方針に、市民主体の文化・芸術の振興を図ることや、国内外からの来訪者に向けて、その文化的価値の理解を深めるため、効果的な情報発信に努めることが掲げられている。また、施策3「文化財の保護・活用」では、博物館を整備し、市内外に当市の魅力を発信するとある。そのような中、（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本構想が令和4年3月に策定された。以下伺う。</p> <p>(1) （仮称）富士宮市立郷土史博物館の維持管理費の想定額は、他市町の類似施設の維持管理費と比較してどうか。</p> <p>(2) （仮称）富士宮市立郷土史博物館基本構想の概要で示された建物建築工事費17億4千万円から22億6千万円について。工事費はS造、RC造及びSRC造などを想定したものと思われる。しかし、基本構想の基本理念で示された「郷土に愛着を感じ」という理念を建物で考えると、サステナブル建築を取り入れた持続可能な視点を取り入れることは、市民から愛着を感じて頂けるのではないだろうか。サステナブル建築の中でも中規模木造建築の可能性はないのか。木造建築にすることで、設計施工する市内の工務店が入札でき、市内経済が循環する機会とならないか。歴史的建造物からみても、木造建築は長きにわたり市民に愛される建物になると考える。また、子どもたちの学びの場としても、木造の小学校など木造建築の可能性が見直されてきている。国が勧める中規模木造建築と（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本構想での文化財を保存管理する建物として、木造建築との相性など、建築資材が高騰している現在、総合的に考えたときの中規模木造建築の可能性について伺う。</p>				市長 教育長 関係部長